



©鳥取県

大山



©鳥取県

鳥取砂丘

鳥取県の農林水産業の概要



©鳥取県



©鳥取県



農林水産省
中国四国農政局
鳥取県拠点

目次

● 鳥取県の概要	2ページ
● データで見る鳥取県の農林水産業①	3ページ
● データで見る鳥取県の農林水産業②	4ページ
● 鳥取県の全国上位の農林水産物（令和5年）	5ページ
● 鳥取県の取組	6ページ
● みどりの食料システム戦略①概要	7ページ
● みどりの食料システム戦略②概要	8ページ
● 水稻	9ページ
● 野菜	10ページ
● 果樹	11ページ
● 地理的表示（G I :Geographical Indication）保護制度	12ページ
● 畜産	13ページ
● 林業	14ページ
● 漁業	15ページ
● 輸出	16ページ
● 農泊	17ページ
● つなぐ棚田遺産	18ページ
● 鳥獣対策・ジビエ推進の取組	19ページ
● 表彰関連（ディスカバー農山漁村の宝・多面的機能発揮促進事業）	20ページ

鳥取県の概要



鳥取県は、東西126km、南北62kmで東西方向に細長く、中国山地が日本海側にせり出した形で横たわっているため、狭小急傾斜で山地が多い地形となっています。

中国地方に位置していますが、経済的には大阪を中心とする近畿経済圏に属しており、人的往来、物資の移出入等京阪神地方との結び付きが強く、産業別構成は第1次産業が2.6%、第2次産業が20.0%、第3次産業が76.9%です。

農業は、三大河川（千代川^{せんだい}、天神川、日野川）に開けた水田地帯での水稲、県東中部の中山間地帯の傾斜地及び黒ぼく丘陵地帯の「日本なし」を中心とした果樹、黒ぼく畑及び砂丘地帯での野菜、大山山麓地帯^{だいせん}の酪農、山間地域の肉用牛など多様な生産が行われています。

林業は、慶長杉^{けいちょうすぎ}に代表されるように八頭郡で古くから杉が造林され、智頭^{ちづ}林業、若桜^{わかさ}林業として全国に知られ、今では県内各地で良質の杉材を生産しています。

水産業は、日本海側最大の漁業基地の境港を中心に、まあじ、さば類、いわし類、ぶり類、いか類、かれい類、ずわいがに、べにずわいがに及びくろまぐろ等の水揚げ、また、美保湾でのぎんざけ^{ぎんざけ}養殖をはじめ、漁港等を利用したわかめ、いわがき^{いわがき}養殖、ひらめ、きじはた、にじます、まさば等の陸上養殖、内水面のさけ・ます類の養殖などが行われています。

データで見る鳥取県の農林水産業①

○ 農 業

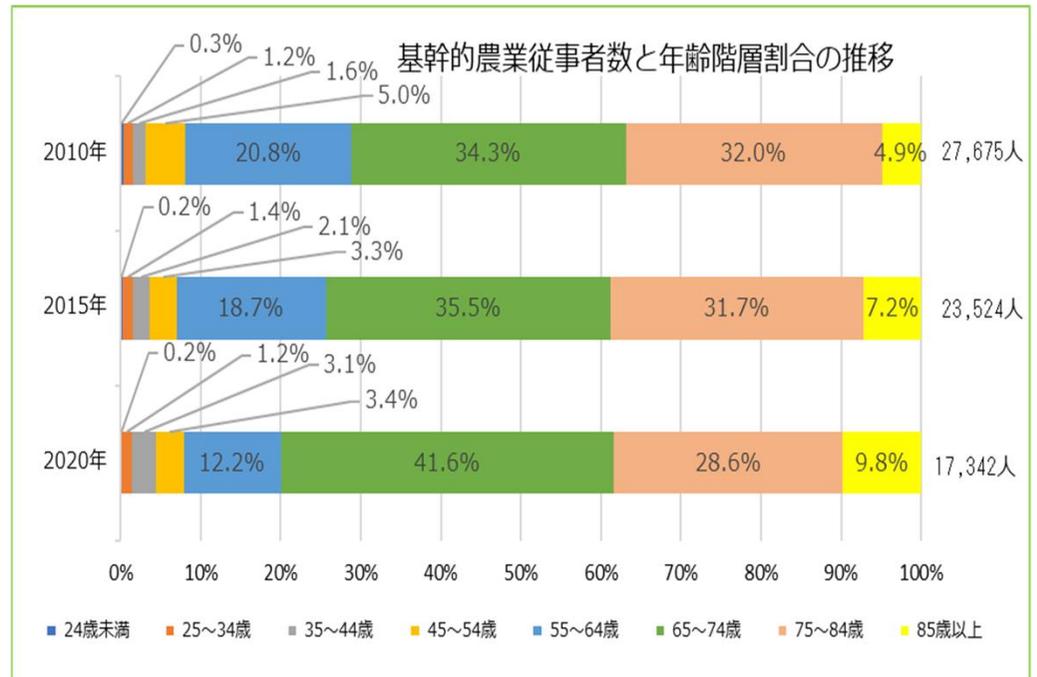
項目		鳥取県	全国	順位
耕地面積 (単位: ha)	R6	32,300	4,272,000	37
田	R6	22,000	2,319,000	35
畑	R6	10,400	1,952,000	32
普通畑	R6	8,320	1,118,000	26
樹園地	R6	1,230	248,600	42
牧草地	R6	799	585,900	19
農業経営体数 (単位: 経営体)	R2	14,481	1,075,705	36
法人経営	R2	311	30,707	39
総農家数 (単位: 戸)	R2	23,106	1,747,079	36
販売農家	R2	13,911	1,027,892	35
基幹的農業従事者数	R2	17,342	1,363,038	35

出典：農林水産省「面積調査」、「農林業センサス」

○ 林 業

項目		鳥取県	全国	順位
林野面積 (単位: ha)	R2	258,432	24,770,201	33
国有林	R2	30,011	7,153,338	27
民有林	R2	228,421	17,616,863	32
林野率 (%)	R2	74	66	13
林業経営体 (単位: 経営体)	R2	843	34,001	15
法人経営	R2	64	4,093	24

出典：農林水産省「農林業センサス」



出典：農林水産省「農林業センサス」

注：2010年は販売農家、2015年、2020年は個人経営体の数値

○ 水 産 業

項目		鳥取県	全国	順位
海面漁業経営体数 (単位: 経営体)	R5	520	65,662	32
海面漁業就業者数 (単位: 人)	R5	979	121,389	33
漁獲量 (単位: t)	R5	100,501	2,926,411	7
ずわいがに	R5	533	2,392	1
べにずわいがに	R5	2,190	13,371	2
まいわし	R5	60,550	692,699	3

出典：農林水産省「漁業センサス」、「海面漁業生産統計調査」

データで見る鳥取県の農林水産業②

○農業産出額

単位：億円

項目	鳥取県	全国	
		金額	順位
産出額計	766	95,543	36
耕種小計	451	57,345	40
米	127	15,279	36
野菜	210	23,243	33
果実	73	9,590	32
花き	30	3,522	33
畜産小計	315	37,685	29
肉用牛	72	7,787	28
乳用牛	81	9,038	20
生乳	77	8,318	19
豚	45	7,259	29
鶏	116	12,561	29
鶏卵	12	7,533	44
ブロイラー	104	4,471	8

出典：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」

○林業産出額

単位：億円

項目	鳥取県	全国	
		金額	順位
産出額計	36	4,751	33
木材生産小計	24	2,481	26
針葉樹	22	2,319	
広葉樹	2	153	
栽培きのこ類生産小計	10	2,199	31
薪炭生産小計	1	38	11

出典：農林水産省「令和5年林業産出額」

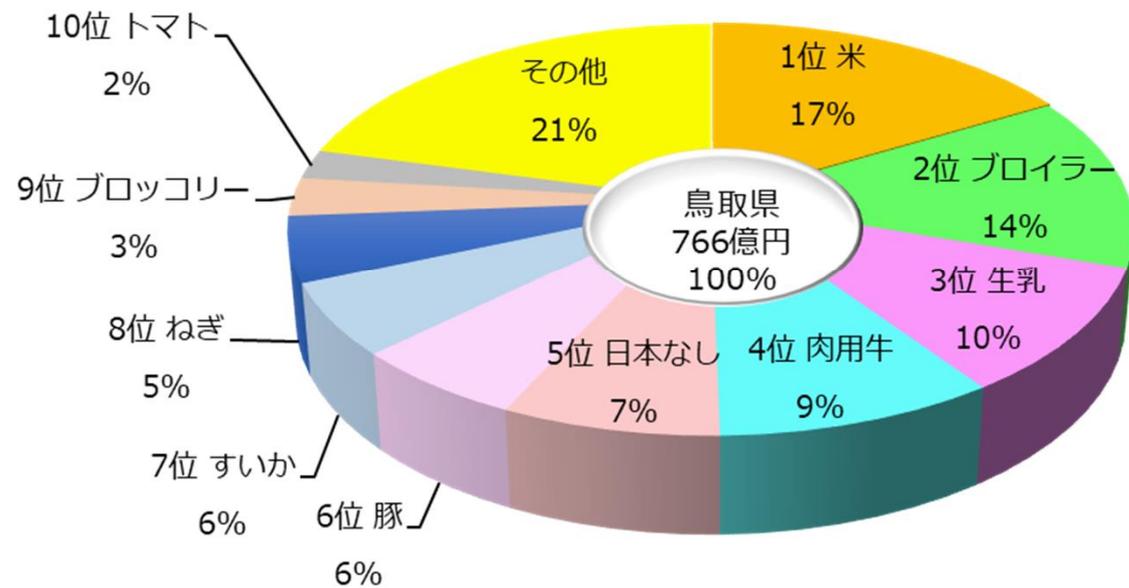
○漁業産出額

単位：億円

項目	鳥取県	全国	
		金額	順位
海面漁業・養殖業計	234	15,241	20
海面漁業小計	211	9,510	
いわし類	37	1,177	
ずわいがに	29	134	
かつお類	24	689	
海面養殖業小計	23	5,731	

出典：農林水産省「令和5年漁業産出額」

○農業産出額の品目別構成比



鳥取県の全国上位の農林水産物（令和5年）

らっきょう（全国1位）
17億円（産出額）



すいか（全国4位）
44億円（産出額）



日本なし（全国3位）
56億円（産出額）



ブロッコリー（全国9位）
23億円（産出額）



ブロイラー（全国8位）
104億円（産出額）



竹炭（全国2位）
86.1 t（生産量）



乾きくらげ（全国4位）
7.8 t（生産量）



エリンギ（全国5位）
318.9 t（生産量）



ずわいがに（全国1位）
533 t（漁獲量）



べにずわいがに（全国2位）
2,190 t（漁獲量）



はたはた（全国3位）
104 t（漁獲量）



まいわし（全国3位）
60,550 t（漁獲量）



鳥取県の取組

鳥取県農業生産1千億円達成プランの策定

鳥取県は農業生産1千億円を達成するため、各種施策を実行する「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」を策定しています。

農林水産物のブランド化推進と園芸基盤強化

収益性の高い園芸品目（白ねぎ、ブロッコリー等）や県オリジナル品種で大玉・高糖度で酸味が少ない日本なし「新甘泉」、鳥取生まれでなめらかな食感と上品な甘みのかき「輝太郎」の導入、いちごの県育成品種「とっておき」、星取県の新しいお米「星空舞」のブランド化等を推進しています。

鳥取県はすいかの出荷量が全国上位であり、中でも「大栄西瓜」は最も生産量が多くなっています。

地理的表示(GI)には「鳥取砂丘らっきょう・ふくべ砂丘らっきょう」「大山ブロッコリー」「こおげ花御所柿」「大栄西瓜」、令和6年には「伯州美人」（白ねぎ）が登録されています。

また、鳥取型低コストハウス※の導入、ハウス施設の高度利用等による生産コスト低減、日本なしのリレー出荷による労力分散、出荷期間の長期化、ジョイント栽培等による園芸産地の基盤強化を進めています。

※ 高強度鋼管を使用し、パイプピッチ幅を従来幅の1.4倍70cmに広げることで、コストを大幅に削減したハウス。耐雪型と通常型があります。



大栄西瓜



新甘泉

適正な価格形成の推進

鳥取県では、9月1日から11月30日を「地産地消月間」とし、県産食材の地産地消の推進を行っています。

令和6年度は、新たに農林水産省が取り組んでいる「フェアプライスプロジェクト」を同時展開し、県産食材への愛着と適正価格について県民理解を深めることで、適正価格による積極的な購入を促進させるキャンペーンを実施しました。併せて、「県民みんなでフェアいいチョイス！」をキャッチフレーズに、平井知事の似顔絵キャラクター「フェアいい信じ」を活用した情報発信を実施しています。



鳥取県特設サイト
<https://motto-tottori.jp/>



「フェアいい信じ」による広告展開

みどりの食料システム戦略①概要

- 農林水産省は、持続可能な食料システムを構築するため、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、2050年までに目指す姿（目標）として、14のKPI（重要業績評価指標）を掲げ、戦略的に取り組んでいくこととしています。
- 鳥取県では、環境に配慮した持続可能な農業生産を図るため、令和5年3月22日に鳥取県と県内全19市町村が共同で「鳥取県みどりの食料システム戦略基本計画」を公表しました。

農林水産省のみどりの食料システム戦略

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）

2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、

今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。

2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。

補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。

地産地消費型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

鳥取県のみどりの食料システム戦略基本計画

鳥取県みどりの食料システム戦略基本計画の概要

令和5年3月公表

- 環境に配慮した持続可能な農業生産を図るため、「生産現場での環境づくり」、「販路の確保」、「消費者等の理解の促進」を推進目標として掲げ、化学肥料・化学農薬の使用低減や農業用プラスチック排出量削減、有機・特別栽培農産物の販路拡大の推進等を総合的に実施する。

【作成主体】 鳥取県及び県内全19市町村

鳥取県、鳥取市、米子市、倉吉市、境港市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

【計画の主な目標】

- ・化学肥料使用量の2割低減（R9）
- ・化学農薬使用量の低減
- ・有機・特裁面積の拡大：2,000ha（R7）
- ・農業用廃プラスチック排出量の削減

【取組のポイント】

- ・県やJA等で構成する「鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会」により、各種取組に必要な協力体制を構築
- ・家畜排せつ物等の地域資源を活用した肥料の利用や技術研修会の開催等により循環型農業の普及を促進
- ・水稻におけるプラスチックレス肥料の実用化や浅水代かきの普及啓発による湖沼等へのプラスチックの流出を削減
- ・商談会の開催や量販店での有機・特裁コーナーの設置等により消費者理解や販路開拓・拡大を促進



堆肥入り肥料の実用化

浅水代かきの研修会



有機農産物の販売促進

みどりの食料システム戦略②概要

○ 鳥取県内の環境負荷低減の取組の「見える化」、有機農業に関する取組について紹介します。

「見える化」に取り組んでいる生産者

みえるらべる

農林水産省は、消費者が環境に配慮した農産物を選択しやすくするため、生産者の環境負荷低減の取組を評価し、星の数で分かりやすく伝える「見える化」を推進しています。

鳥取県 みえるらべる MAP



- ①馬田 雄一郎 (米)
- ②AGBIOTECH株式会社 (なす、たまねぎ)
- ③大原トマト生産部 (トマト)
- ④石田農園 (きゅうり・トマト)



温室効果ガス削減の取組

- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・化石燃料の削減
- ・堆肥やバイオ炭の施用 等

削減貢献率 5%以上: ★
 // 10%以上: ★★
 // 20%以上: ★★★

≫ 地域の標準的な栽培と比較した温室効果ガス排出量の削減貢献率を算定し、等級を確定

生物多様性保全の取組

- ※米に限る
- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・冬期湛水
- ・魚の保護 等

取組の得点1点 : ★
 // 2点 : ★★
 // 3点以上: ★★★

≫ 温室効果ガス削減に加え、生物多様性の保全につながる取組の実施数を得点化し、等級を確定

見つけて！農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」(農林水産省HP)：
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

鳥取県内の有機農業の取組

有機JASは、有機食品（農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないことを基本として自然界の力で生産された食品）について農林水産大臣が定める国家規格です。



全国と鳥取県の有機JASほ場面積 (ha)

(令和6年3月31日現在)

	合計(ha)	田	畑	その他
全国	21,815	3,598	18,092	126
鳥取県	46	20	25	1

有機JAS (農林水産省HP) :

<https://www.maff.go.jp/j/jas/index.html>

※小数点以下は四捨五入したため、合計が一致しない

鳥取県内初！

「とっとりになんオーガニックビレッジ宣言」
 (鳥取県日野郡日南町)

日南町は、令和6年4月22日に鳥取県内では初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

オーガニックビレッジとは？

有機農業の生産から消費まで一貫して取り組む市町村をいいます。

主な取組

- 化学農薬を使わず、人手をかけない除草方法の検証
- 大規模イベントでの有機農産物販売など

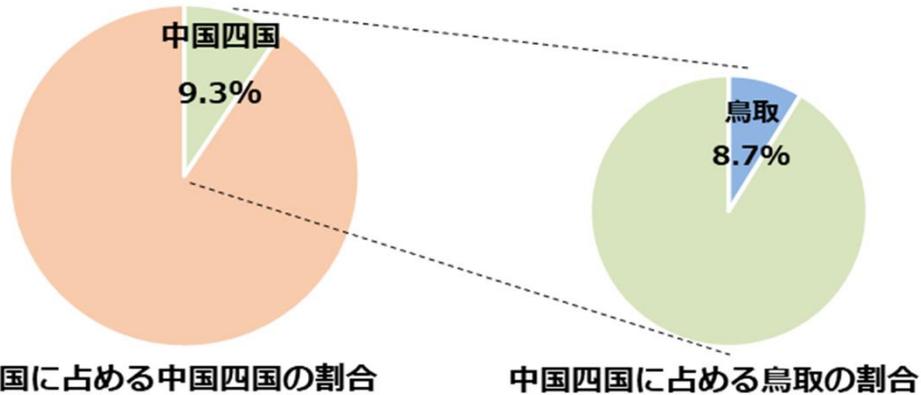


オーガニックライフスタイルEXPOへ出店

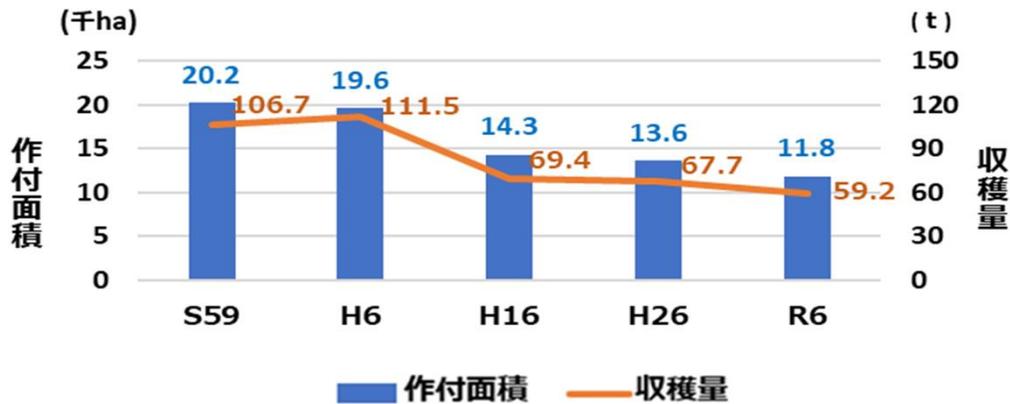
水稻

- 令和5年の鳥取県の米の産出額は127億円で全国で36位、収穫量（令和6年産）は59,200 t となっています。
- 鳥取県内の主食用米の品種は、良食味の早生品種「コシヒカリ」と「ひとめぼれ」の作付けが半数以上を占めています。近年は、高温年でも収穫・品質が安定して高い、中生品種「きぬむすめ」の作付けが増加しています。
- 鳥取県オリジナル品種の「^{ほしぞらまい}星空舞」は、令和元年に本格的に生産が始まり、令和5年産は約1,410haとなっています。星のように輝くお米「星空舞」は、炊いたご飯のツヤや光沢が特に優れ、令和4年産食味ランキングでは、特Aを獲得しています。

令和6年産の水稻（子実用）収穫量に占める割合



鳥取県の水稻作付面積・収穫量の推移



出典：農林水産省「作物統計」

鳥取県が開発した「星空舞」



●特徴

- ・白米が綺麗で透き通っている。
- ・お米のおいしさの指標「食味度」が高い。
- ・炊いたお米のツヤが優れる。
- ・粒感がしっかりあり、はね返るような食感。
- ・冷めても食感が変わらず美味しい。

●栽培上の特性

- ・夏場の高温に強く、一等米に格付けされやすい。
- ・コシヒカリより背丈が短く、倒れにくい。
- ・いもち病にかかりにくい。

◆鳥取県のお米について（鳥取県HP）：
<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=178194>

野菜

- 令和5年の鳥取県の野菜の産出額は210億円で全国33位、鳥取県農業産出額の27%を占めています。
- 産出額が全国上位の品目は、らっきょう（1位）、すいか（4位）、ブロッコリー（9位）、ねぎ（13位）です。
- らっきょうは「鳥取砂丘らっきょう」「ふくべ砂丘らっきょう」、すいかは「^{だいえいすいか}大栄西瓜」「^{ごくみ}極実すいか」「とまり美人」「がぶりこ」、ブロッコリーは「^{にちなん}大山ブロッコリー」、ねぎは「^{はくしゅうびじん}伯州美人」、ながいもは「ねばりっこ」「砂丘ながいも」、トマトは「^{おはら}日南トマト」「大原トマト」等ブランド化して販売しています。

らっきょう

県東部・中部の砂丘地帯で生産され、特に鳥取砂丘に隣接する鳥取市福部町は全国屈指の産地です。砂丘畑のきめ細かい砂地で生産されるらっきょうは、色の白さとシャキシャキとした歯ごたえが自慢のトップブランドです。

主な産地：鳥取市福部町、北栄町ほか



ねぎ

米子市を中心とした弓ヶ浜半島の砂地一帯から始まった白ねぎ生産は県下全域に広がっています。作付時期や品種構成等により周年出荷体制が確立されています。

主な産地：米子市、境港市ほか県下全域



すいか

県中部・西部の大山山麓の黒ぼく地帯を中心に栽培されています。大玉で水分たっぷりの鳥取すいかは市場から好評を得ています。

主な産地：北栄町、琴浦町、倉吉市ほか



ながいも

県中部の砂丘地で生産される「砂丘ながいも」は、サクサクした食感が自慢です。鳥取県園芸試験場で開発した「ねばりっこ」は、従来の「砂丘ながいも」に比べて小太りで粘りが強く、肉質が緻密なのが特徴です。

主な産地：北栄町



ブロッコリー

主に県中部・西部の黒ぼく地帯で栽培され、初夏から冬期までの間、収穫されます。輸入品と区別するために葉を付けて出荷されています。

主な産地：大山町ほか県下全域



トマト

冷涼な気候を活かして特産化を進めている日南町や倉吉市大原地区の大玉トマト栽培、琴浦町でのミニトマト栽培に加え、加工品作りも盛んに行われています。

主な産地：【大玉トマト】日南町、倉吉市ほか
【ミニトマト】琴浦町、北栄町ほか



果樹

- 令和5年の鳥取県の果実の産出額は73億円で全国32位、結果樹面積は日本なし550ha、かき219ha、ぶどう57haとなっています。
- 日本なしは、産出額が全国3位（収穫量全国5位）で、「二十世紀梨」を中心に、県オリジナル品種の「なつひめ」^{しんかんせん}「新甘泉」等、様々な品種が栽培されています。
- かきは、渋抜きすると甘く上品な味の「西条柿」、鳥取県が原産地で日本一甘い柿と言われている「花御所柿」^{はなごしょがき}等、歴史ある優れた品質のかきが栽培されています。

日本なし

鳥取県といえば日本なし。特に「二十世紀梨」は、明治37年（1904年）に千葉県から導入されて以来、100年以上栽培される歴史ある代表品種となっています。また、「二十世紀梨」との交雑の結果、「なつひめ」などの青梨、「新甘泉」などの赤梨が育成、栽培されています。



二十世紀梨



なつひめ



新甘泉

ぶどう

県中部を流れる天神川の下流に広がる砂丘地は水はけが良く、昼夜の気温差が大きいので、ぶどう栽培に適しており、「ピオーネ」「デラウェア」「巨峰」「シャインマスカット」など県内一のぶどう産地が形成され、ワインづくりも行われています。



ピオーネ

かき

鳥取県で栽培されているかきの品種は、「富有」と「西条」が中心ですが、鳥取県原産の「花御所柿」の人気も高く、八頭町郡家地区を中心に特産化が図られています。平成22年には鳥取県のオリジナル品種「輝太郎」が登録され、育成・普及が進みつつあります。



西条柿



花御所柿



きたろう
輝太郎

鳥取県の主要な果樹の収穫量と全国シェア・順位

果樹名		収穫量(t)	全国シェア(%)	順位
日本なし	R5	11,700	6.4	5位
かき	R5	2,090	1.1	18位
ぶどう	R5	501	0.3	23位

出典：農林水産省「作況調査（果樹）」

地理的表示（GI : Geographical Indication）保護制度

- 地理的表示保護制度は、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で長年育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する産品の名称を、地域の知的財産として保護するものです。
- ビジネスにおいては、地域と結びついた産品の品質、製法、評判、ものがたりといった潜在的な魅力や強みを見える化し、国による登録やGIマークと相まって、効果的・効率的なアピール、取引における説明や証明、需要者の信頼の獲得を容易にするツールです。
- 令和7年3月時点で、全国で161産品、鳥取県内では5産品が登録されています。

鳥取砂丘らっきょう ふくべ砂丘らっきょう

生産地：鳥取市福部町内の
鳥取砂丘に隣接した砂丘畑
登録団体：鳥取いなば農業協同組合



日本の地理的表示法に基づいて登録された産品には、地理的表示と併せてGIマークを表示することができます。



大山ブロッコリー

生産地：大山町、日吉津村、南部町、
伯耆町、日南町、日野町、
江府町、米子市
登録団体：鳥取西部農業協同組合



だいえいすいか 大栄西瓜

生産地：北栄町、琴浦町、倉吉市
登録団体：鳥取中央農業協同組合



はなごしよがき こおげ花御所柿

生産地：八頭町
登録団体：鳥取いなば農業協同組合



はくしゅうびじん 伯州美人

生産地：米子市、境港市及び
その周辺の大山山麓
登録団体：鳥取西部農業協同組合



- ◆地理的表示産品情報発信サイト（日本地理的表示協議会）：
<https://pd.jgic.jp/>
- ◆地理的表示(GI)保護制度（農林水産省HP）：
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/index.html

畜産

- 令和5年の鳥取県の畜産の産出額は315億円で29位、鳥取県農業産出額の41%を占めています。
- 品目別産出額の全国順位は、ブロイラー（8位）、生乳（19位）、肉用牛（28位）、豚（29位）、鶏卵（44位）です。ブロイラーは複数の大規模生産者、生乳は大山乳業農業協同組合が主体となっています。
- 鳥取県独自のブランドとして、肉用豚の「大山ルビー（RB）」、肉用鶏の「鳥取地どりピヨ」が商標登録されています。

鳥取和牛

黒毛和牛の産地として知られる鳥取県。県内で肥育、肉質が3等級以上の黒毛和種を「鳥取和牛」として販売しています。また、鳥取和牛のうち、オレイン酸含有量55%以上を含む牛肉を「鳥取和牛オレイン55」としてブランド化しています。



大山ルビー（RB）

鳥取県独自のブランド豚で、旨み成分の一つであるオレイン酸が多い大山赤ぶたと、肉の旨さ、柔らかさに優れた黒豚の両方の良い性質を受け継いでおり、食味試験等では、赤み・脂肪ともに高評価を得ています。



牛乳・乳製品

県内で生産された生乳は、生産、処理、販売を一貫体制で行う大山乳業農業協同組合に集められ、組合ブランドの「白バラ牛乳」やスイーツ、アイス、ヨーグルト等乳製品を製造し販売しています。



肉用鶏

ブロイラーの全国屈指の生産県で、飼養羽数は横ばい傾向から増加の動きが見られます。

「鳥取地どりピヨ」は鳥取県独自のブランド地鶏で、品種や飼育方法等様々な条件をクリアしたものだけが名乗れます。肉は歯ごたえが良く、コクがあり、ブロイラーとはひと味違う野性味あふれる味となっています。



鶏卵（加工・販売）

県内には、飼育方法や餌等にこだわり、生食の他、スイーツ等に加工販売する6次産業化の取組があります。

大江ノ郷自然牧場は平飼いの「天美卵」を使ったスイーツ等の販売や自社レストラン等で卵料理を提供しています。

小川養鶏場は「さくらたまご」を使ったスイーツを自社スイーツ専門店で販売しています。



林業

- 令和5年の鳥取県の林業産出額は36億円で全国33位、うち木材生産が24億円、栽培きのこ類生産が10億円、薪炭生産が1億円となっています。
- 県東部の「^{けいちょうすぎ}慶長杉」に代表される杉は、産出額が全国21位で、鳥取県全体（木材産出額）の67%を占めています。
- 栽培きのこ類等の主な品目と生産量の全国順位は、竹炭（2位）、乾きくらげ（4位）、エリンギ（5位）です。

慶長杉（智頭町）

四季を通じて寒暖の差が激しい気候風土と伝統的な育林技術により育まれた「智頭杉」のうち樹齢約400年の人工林は「慶長杉」と名付けられ、造林の典型的な林業景観は全国的に知られています。



竹炭

琴浦町の大山竹炭工房では、竹炭を調湿・消臭剤として製品化するだけでなく、窯の上に寝転がるだけで遠赤外線の入浴体験可能な入浴窯も販売しています。



アラゲキクラゲ

日本きのこセンターが飲食メーカーからの相談を受け、ビタミンDと食物繊維が豊富な食材であるアラゲキクラゲの栽培研究を開始、雇用創出など地域活性化にも貢献しています。



エリンギ

八頭町の北村きのこ園では、国産杉のおがくずを約2年間堆積し、不純物を除去したものにふすま・米ぬかを混ぜたものを培地として使用するなど、農薬や化学肥料を使用しない、希少な方法により栽培しています。



鳥取県きのこ産業ビジョン

生産者、関係団体、行政が構成する「鳥取県原木しいたけブランド化促進協議会」が、きのこ王国とっとの再興を目指し、令和6年3月に「鳥取県きのこ産業ビジョン」に改訂しました。

一般社団法人 日本きのこセンター

鳥取県にある、国内唯一のきのこ専門の民間学術研究機関。きのこ類の調査研究や栽培による地域振興・産業発展に取り組んでいます。

とっとりたけおう 鳥取茸王

日本きのこセンターが開発した「菌興115号」の種菌を使い、原木栽培されたしいたけを総称して「とっとり115」と言い、この中から、傘径・厚さなどの規格を満たした生しいたけを「鳥取茸王」としてブランド化しています。



漁業

- 令和5年の鳥取県の漁業産出額は234億円で全国20位、漁獲量は100,501 t と全国7位となっています。
- 鳥取県には全国有数の水揚げ量がある境港があり、主な品目と漁獲量の全国順位は、ずわいがに（1位）、べにずわいがに（2位）、まいわし（3位）、はたはた（3位）となっています。
- ずわいがには「松葉がに」、特に優れた松葉がには「五輝星」、岩がきは「夏輝」、さけは「活メ境港サーモン」、「クラウンサーモン」等、さばは「お嬢サバ」、「さばみちゃん」等ブランド化して販売しています。

ずわいがに

山陰地方で獲られるずわいがには、成長した雄を「松葉がに」、雌を「親がに」と呼びます。

松葉がには身がぎっしり詰まり、上品な甘みが特徴です。

親がには雄に比べて小さく、かに汁などで食されます。

漁期は11月から3月までの間で資源管理を行っています。



べにずわいがに

べにずわいがには、主に境港で水揚げされ、鮮やかな赤色と甘みが特徴です。

加工品としての利用価値が高いため、境港には加工施設が多く、棒肉、爪肉、かにみそ等のかに製品や冷凍食品に加工されます。

殻はキッチン、キトサンの原料として利用されます。漁期は9月から6月までの間となっています。



はたはた

鳥取県のはたはたは9月から5月までが漁期で、朝鮮半島付近で生まれ山陰沖を回遊するため、卵がない代わりに、脂がのっているのが特徴です。

大きさが20cm以上あるはたはたは、鳥取県オリジナルブランド「とろはた」として販売しています。



岩がき

鳥取県内で獲られた岩がきの中でも、殻の大きさが13cm以上の高品質な岩がきには「夏輝」のブレンドラベルが付けられ販売されます。漁期は6月から8月までです。



さけ

鳥取県では豊かな水資源を活かして海上や陸上でサーモン養殖に取り組んでいます。海上養殖では境港市の「活メ境港サーモン」、陸上養殖では倉吉市の「クラウンサーモン」、琴浦町の「とっとり琴浦グランサーモン」、米子市の「皆生サーモン」とブランド化を図っています。



輸出

- 鳥取県の輸出品のうち、主な農産物や食品は、菓子等加工食品、日本酒、日本なし、和牛、乳製品などとなっています。
- 農林水産省では、農林水産物・食品の輸出に取り組もうとする方を支援するため、平成30年に「GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）」を開始し、輸出診断などのサポートを行っています。鳥取県内のGFP登録事業者数は、令和7年6月現在で、57件（中国四国では864件）です。



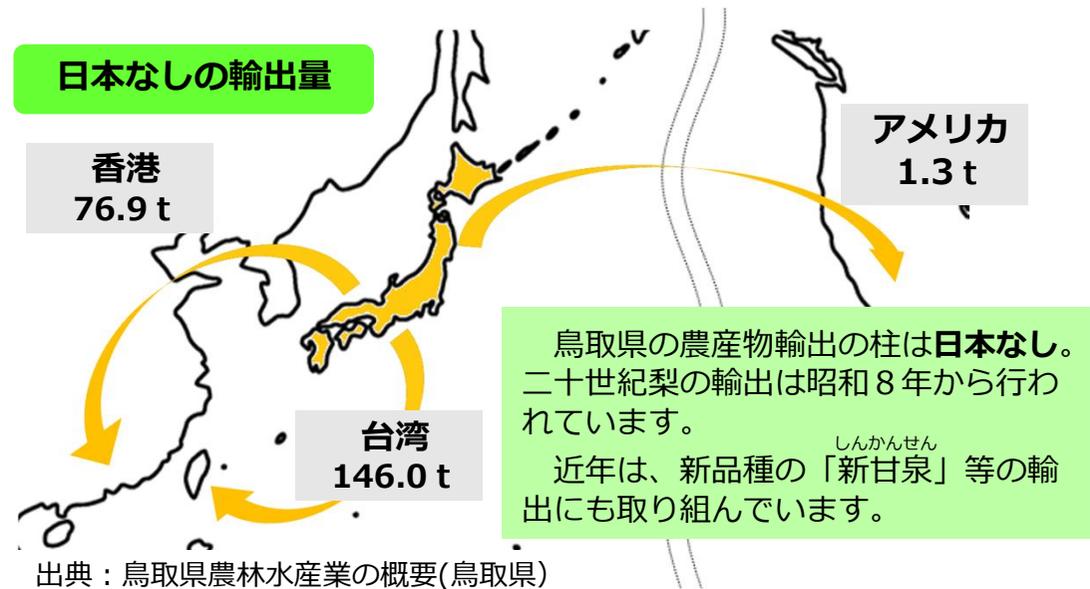
1億人ではなく、
100億人を見据えた
農林水産業へ。

鳥取県の主な農産物・食品の輸出品目と輸出先（令和5年度）

品目名	輸出先	(千円) 輸出額	輸出量
加工食品 (菓子等)	北米、中国、 オセアニア、欧州、韓国、 台湾、香港	514,293	—
日本酒	主に米国、韓国、 中国、香港、ロシア	280,121	—
日本なし	主に台湾、香港、米国	191,308	225 t
和牛	台湾、香港、タイ、 マレーシア	84,951	13 t
乳製品	主に韓国、マカオ、台湾	26,420	—
すいか	香港	7,862	28 t
かき	主にタイ	1,673	2 t

出典：中国四国農政局「中国四国地域の輸出マップ」

注：本データは、県及びJ A等の協力により把握した主な農林水産物・食品の輸出額・輸出量であり、各県の状況を網羅したものではない。



フラッグシップ輸出産地

農林水産省では、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定しています。

令和6年12月、牛乳や乳製品の製造・販売を手掛ける大山乳業農業協同組合が、鳥取県内で初めてフラッグシップ輸出産地に認定されました。



農泊

- 農林水産省では、農山漁村に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」の「農泊」を推進しています。地域資源を観光コンテンツとして活用し、インバウンドを含む国内外の観光客を農山漁村に呼び込み、地域の所得向上と関係人口創出を図ります。
- 鳥取県内には、農林水産省の農山漁村振興交付金（農泊推進対策）に採択されている地域が8か所あります。

鳥取県内の農山漁村振興交付金（農泊推進対策）採択地域

①五しの里さじ地域協議会（鳥取市）

②一般社団法人麒麟のまち観光局（鳥取市外6町）

③倉吉市体験型教育旅行誘致協議会（倉吉市）

④岩美渚伯推進協議会（岩美町）

⑤ふなおか共生の里づくり推進協議会（八頭町）

⑥若桜谷活性化協議会（八頭町）

⑦南部町農泊推進協議会（南部町）

⑧一般社団法人日南町観光協会（日南町）



立ち寄るのみだと...

滞在時間：短 → 「通過型観光」



利益は限定・局所的

宿泊・体験コンテンツが充実すると...

滞在時間：長 → 「滞在型観光」



地域の利益の最大化

農泊を支える体制を構築する中で
地域の雇用も！

多様な交流はリピーターを生み、
移住・定住のきっかけに！

◆ 「農泊」の推進について（農林水産省HP）：https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuishin/nouhaku_top.html

つなぐ棚田遺産

- 棚田は「日本のピラミッド」といわれるほどの伝統・文化、美しい景観、教育、国土保全といった多面的機能を有しており、農業生産活動を主体としつつ、地域住民等の共同活動によって守られている国民共通の財産です。
- 農林水産省では、棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価することで、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能へのより一層の理解・協力の促進を目的として、令和3年度に「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」を実施し、全国で271地区、うち鳥取県内では3地区がつなぐ棚田遺産に認定されました。

鳥取県内のつなぐ棚田遺産認定地区

きょうがはら
①京ヶ原棚田（鳥取市国府町上地）



未来へ残す天空の棚田

棚田を管理する地元農家が減少する中で、鳥取大学や地元企業等からボランティアを募り、官民一体となって棚田の景観を未来に残すために保全活動に取り組んでいます。

よこお
②横尾棚田（岩美町大字洗井）



農村交流の場

「いがみ田」を後世に！

棚田オーナーや学生ボランティアと協力し、田植え・稲刈り・水路の維持管理を行い、別名「いがみ田」と呼ばれる風光明媚な田園風景を後世のために守り続けています。



棚田とは

山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られた水田のことを棚田といいます。階段状に作られた畑のことは段々畑といいます。



よね
③つく米棚田（若桜町大字つく米字野）

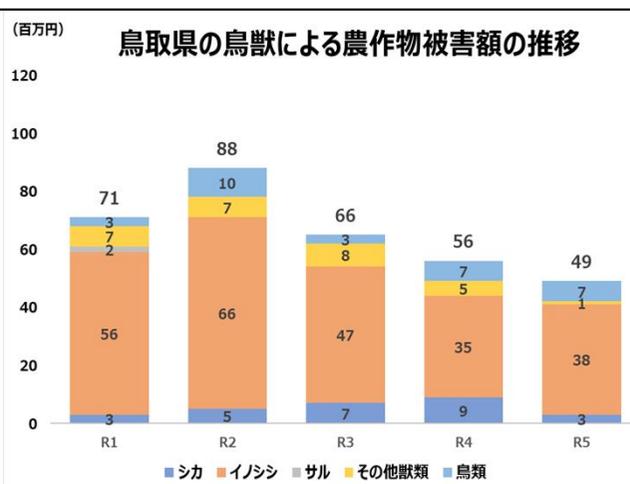


標高800mの大自然に 拓かれた棚田

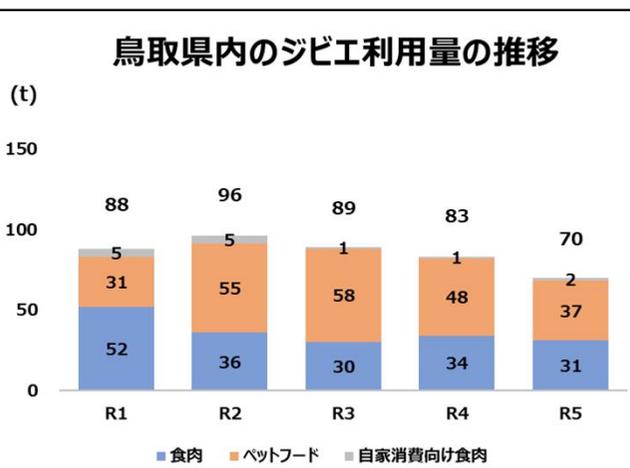
県との連携による農山村ボランティアの受け入れ等を通じて、ボランティアによる棚田の保全活動に取り組んでいます。

鳥獣対策・ジビエ推進の取組

- 農林水産省では、鳥獣被害の防止対策とともに、捕獲した鳥獣を地域資源として活用するジビエ利用を推進しています。令和5年度の鳥取県内における野生鳥獣による農作物の被害額は約49百万円で、そのうち78%の約38百万円がイノシシによる被害です。
- 鳥取県では、「食パラダイス鳥取県」をテーマに、豊かな食による県政の推進に取り組んでいますが、イノシシやシカなどによる被害が拡大する中、ジビエを新たな資源「とっとりジビエ」とし、飲食店をはじめ、アウトドア、スポーツなど様々な分野で推進を行っています。令和5年度、鳥取県内のジビエ利用量は約70 tで、全国7位となっています。



出典：農林水産省「野生鳥獣による農作物被害状況」



出典：農林水産省「野生鳥獣資源利用実態調査」

鳥取県内の取組紹介

わかさ29工房（若桜町）ジビエ認証施設 第7号



鳥取県HACCP適合施設認定を取得。高度な品質・衛生管理を行い、ジビエ利活用の全国的な先進モデルとして県内外のジビエ処理加工施設を牽引しています。

★令和4年度

鳥獣対策優良活動表彰 農村振興局長賞受賞！

国産ジビエ認証制度とは



より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、衛生管理及び流通規格の遵守、適切なラベル表示によるトレーサビリティの確保等に取り組む食肉処理施設の認証を行う制度。

日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊

日野郡3町が合同で設立した協議会の実施隊で、集落講習会の開催や地域に適した侵入防止柵の普及、集落ぐるみの対策体制の構築を推進しています。

「捕獲」ではなく「農作物を守る」対策で住民意識を変え集落ぐるみの対策で被害金額・面積ともに減少につなげています。

★令和5年度

鳥獣対策優良活動表彰
農村振興局長賞受賞！



鳥取県庁食堂（鳥取市）

ジビエを地産地消しようと、2007年よりジビエカレーを提供。第1・3・5火曜日は「鹿野町の猪カレー」を、第2・4火曜日に「若桜町の鹿カレー」を提供しています。



詳しくは 農林水産省WEBマガジン aff 2024年12月号行ってみよう！「社員食堂」鳥取県庁食堂
<https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2412/canteen04.html>

◆ 鳥獣害対策の広場（中国四国農政局HP）：<https://www.maff.go.jp/chushi/chojyuu/index.html>

◆ ジビエの利活用について（中国四国農政局HP）：<https://www.maff.go.jp/chushi/chojyuu/jibie.html>

ディスカバー農山漁村の宝・多面的機能発揮促進事業

- 農林水産省では、各事業において優良な取組を選定し、様々な表彰事業を行っており、鳥取県内で受賞された主な事業を紹介します。
- 「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成26年から毎年実施しており、令和7年は第12回選定となります。鳥取県内では、第4回、第9回、第11回において、優良事例として全国選定されています。
- 「多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰」においては、鳥取県内の多面的機能支払に取り組む活動組織が令和4年から令和6年まで3年連続で最優秀賞を受賞しています。

ディスカバー農山漁村の宝



「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向け、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことによる地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信することを通じて他地域への横展開を図る取組です。

● 県内の全国選定地区

第11回 (令和6年)	いでかみ 出上農地・水保全活動組織 (琴浦町)	 軽トラ水族館
第9回 (令和4年)	ばんくあつぷ NPO法人 bankup (鳥取市)	 電気柵の設置
第4回 (平成29年)	にく わかさ29工房 (若桜町)	 ジビエ料理

◆ディスカバー農山漁村の宝（農林水産省HP）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

多面的機能発揮促進事業 中国四国農政局長表彰



中国四国農政局では、水路や農道等の地域資源の保全管理等農業の有する多面的機能の発揮を促進する本事業の推進や、関係者への優良事例の横展開を目的に、優秀な取組を行う組織を表彰しています。

● 最優秀賞受賞組織

令和6年度	したまちみどりかい 下町水土里会 (八頭町)	 ため池の清掃
令和5年度	えげ 会下部落地域資源・ 環境保全プロジェクト (鳥取市)	 景観形成活動
令和4年度	いでかみ 出上農地・水保全活動組織 (琴浦町)	 田植え

◆多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰（中国四国農政局HP）
<https://www.maff.go.jp/chushi/chusankan/nihongata.html>

**農林水産省
中国四国農政局**

鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取市富安2丁目89番地4

鳥取第1地方合同庁舎

電話：0857-22-3131（代表）

令和7年7月作成